

形 式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	A retrospective observational study of primary cutaneous malignant melanoma patients treated with excision only compared with excision biopsy followed by wider local excision.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ガイドライン上での目次名称	MMCQ7-9	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	15030337	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Dermatol.	
	雑誌 ID		
	巻	150	
	号	3	
	ページ	523-30	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	2004 Mar	
	著者情報		氏名
筆頭著者		McKenna DB	Department of Dermatology, Royal Infirmary of Edinburgh
その他著者 1		Doherty VR	同上
その他著者 2		Lee RJ	Medical Statistics Unit, University of Edinburgh
その他著者 3		Prescott RJ	同上
その他著者 4			
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	切除生検をしてから拡大切除をした場合と、一期的に切除をする場合で予後に差があるか検討する。	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	Scottish Melanoma Group database	
	対象者	1979 から 1997 までの患者 1595 人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 22 ）	
	介入（要因曝露）	切除生検をしてから拡大切除、一期的に切除	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
	1	全生存率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	無病生存率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	3	無再発率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	一期的に切除したグループ（n=547）は切除生検をしてから拡大切除を行ったグループ（n=1048）に比べて有意に高齢で、腫瘍が厚く、悪性黒子型の割合が高く、頭頸部の割合が高く、潰瘍を伴う率が高かった。切除マージンは有意に一期的に切除したグループの方が狭かった。 全生存率、無病生存率、無再発率は切除生検をしてから拡大切除を行ったほうが有意に優れていた（$p<0.00001$、$p<0.00001$、$p=0.0001$）。年齢、性別、tumor thickness、原発部位、組織、潰瘍の予後因子について補正を行った後でも、切除生検をしてから拡大切除を行ったほうが全生存率（ハザード比(HR)0.75, 95%信頼区間 (CI) 0.61-0.62, $p=0.006$）、無病生存率（HR 0.75, CI 0.62 -0.90, $p=0.002$）、無再発率（HR 0.78, CI 0.62 -0.99, $p=0.04$）が有意に優れていた。	
	結論	一期的に切除をおこなうと切除マージンが不十分となる。理由は明確ではないが生存率は切除生検をしてから拡大切除を行ったほうが優れている。	

	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ IV ）